

離婚の思想文化史：  
絆をほどいて：  
第八回

結婚挫折の意味とその文脈

# 離婚研究の落とし穴

## 公式 離婚は法的手続き

非公式な解消（e.g.遺棄）では離婚にならない。

## 疑問？

「法律改定により離婚事由が拡大されると、なぜ離婚件数が増加するのか」

## 答え：

- (1) 法的規制の弱化により、人間の精神も劣化する
- (2) 潜在的な結婚破綻が表面化する
- (3) 法は各時代の国家・社会・経済の状況を写しだす変数にすぎず、法と人間精神との相関関係は希薄

# 離婚研究と離婚モデル

## 離婚研究の形式

- 法律の進展
- 離婚への政策上の変化
- 人々の離婚への態度

## 離婚モデル

求婚→婚約→結婚→破綻→離婚決断→法的結婚解消

- これは少数のカップルが実行する方法
- 結婚の数の増減
- 破綻の潜伏化
- 法手続の簡素



# 結婚破綻

- ◎ 「配偶者の少なくとも一方が結婚継続は不適切と考える状況やふるまい」。
- ◎ 個人的感覚によって決まる
  - 耐えられることとそうでないことの境界
- ◎ 研究対象になりにくい
  - ある個人の感情的高まりというレアなケースが、法的記録として詳細に残るというアンバランス。
- ◎ 状況やふるまい *maritalement*
  - 「配偶者としてふさわしいやり方」
    - ふさわしいさ？

# ふいわわしさ *MARITALEMENT*

## 結婚・配偶者への逆期待値

- 相互の理解度
- 経済状況
  
- 相互の相性
- 性的関係

重要  
度

頻度

期待はずれの行為

文脈



# 原因別破綻：家庭内暴力

- ◎ 妻への暴力（「穏当な矯正」）は社会が容認
  - 血を出してはいけない、「棒を使う」rule of thumb
  - 17世紀英国・米国で暴力への禁止
  - 1937年に、反家庭内暴力の法制度化
- ◎ 訴訟数はわずか、しかし継続的、一般的
  - 法が効果的に働かない
  - 訴訟を起こせば虐待が増す
  - 共同体が女性を守ってくれる（シャリヴァリ charivari）

# 原因別破綻：不倫

## ◎ 結婚が座標軸

- 性行為は
  - ①夫婦間では合法
  - ②婚前（fornication）  
婚外（adultery）では非合法
- 性行為は
  - 同性間の交渉・獣姦は極刑
  - 婚前交渉は一時的破門
  - 婚外交渉は、結婚への冒涇（場合によって極刑）
    - 原則は説得による結婚継続
    - 社会的な暗黙の容認（妻とともに家に別な女性が住む）
    - ただし女性の不倫に法は厳格

# 原因別破綻：感情内容

## ◎ 愛情の強さ vs. 無関心

- 「経済状況・社会身分に関係なく、愛情欠落は結婚を殺す」←近代の観念

## ◎ 感情的満足 vs. 利害要因

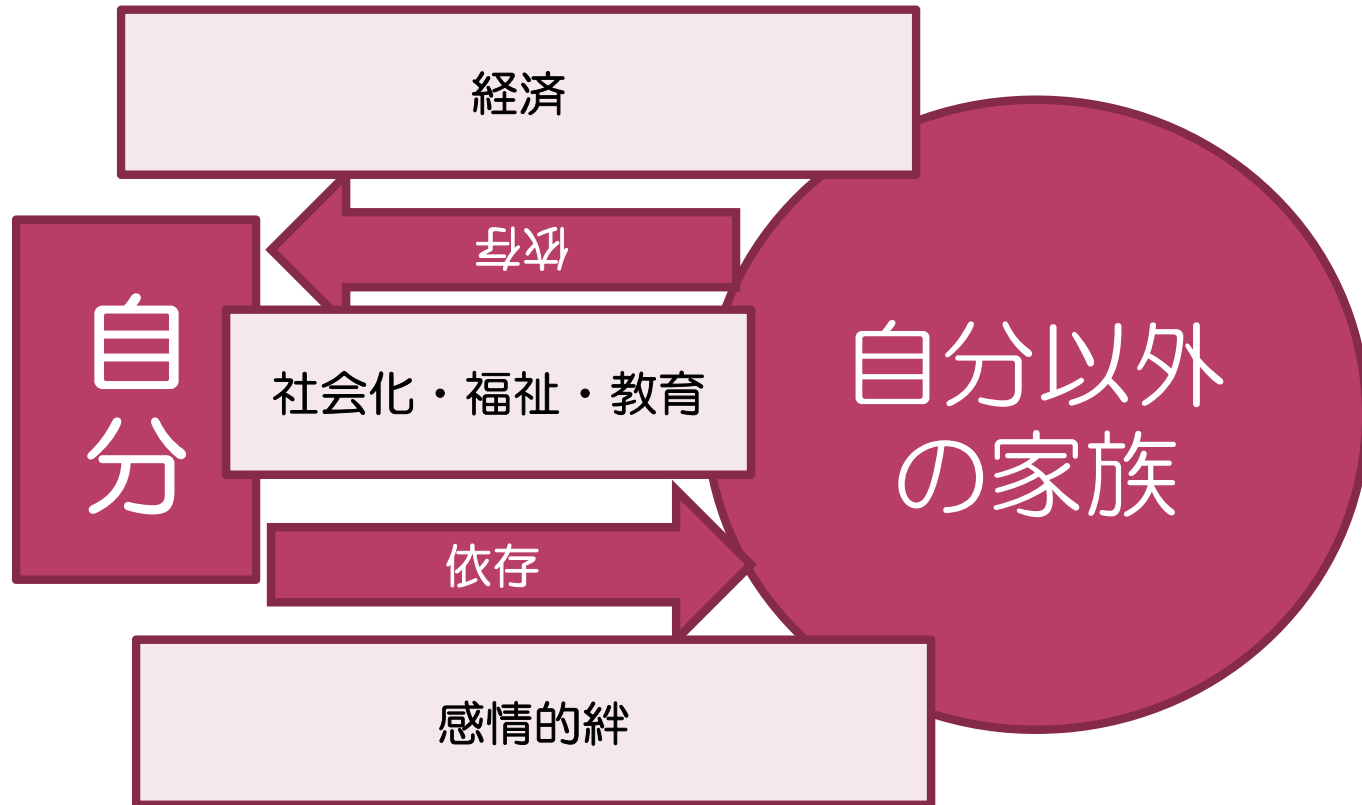
- 感情的満足の優先
- 個人による相手の選択
- 分水嶺は 18世紀労働者階級(Shorter説)  
18世紀初頭の有資産階級 (Stone説)

# 感情内容の決定変数



# 家族の経営

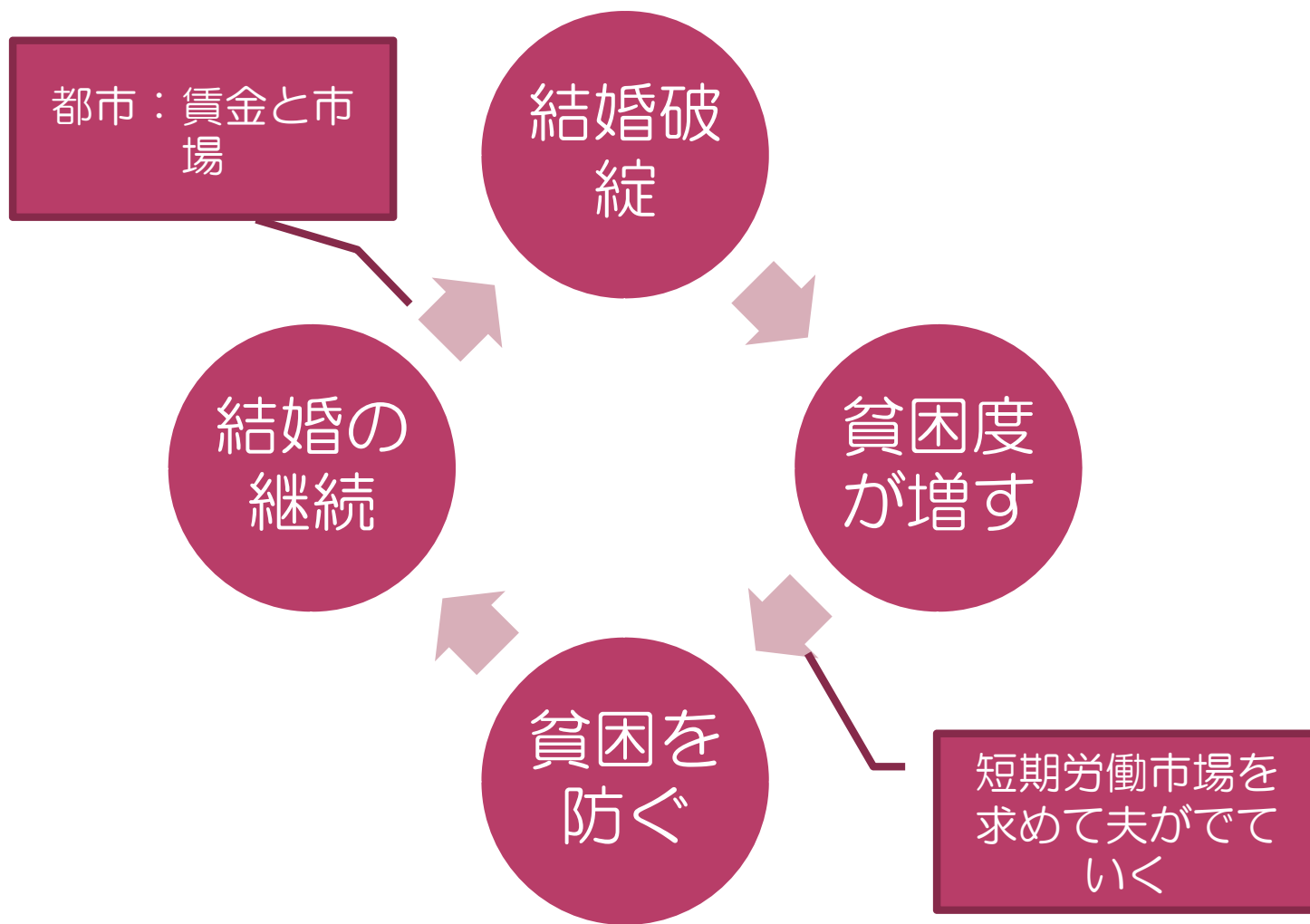
- ◎ 最小の生産単位。最小の収入単位
- ◎ 役割分担（仕事の分割と相補）



# 家族の経営：訴え抑止の要因

- ◎ 配偶者の死亡→家経の破綻
  - 寡夫は一年以内に結婚
- ◎ 夫による遺棄
  - →妻は再婚できない・所有権がない
- ◎ 妻による不倫
  - →妻不在では家経破綻

# 家族の経営：市場と都市が解放の要因



# 家族の経営：19世紀の工業化

- ◎ 雇用と個人収入が、
  - (1)若年層を親の権威から解放
  - (2)夫の側による結婚破綻も促進
    - ∵女性の雇用は増えなかった
    - 女性雇用は未婚・若年層

# 破綻抑止の社会・経済的要因

- ◎ 夫を遺棄した場合
  - 孤独の生活：法的・経済的保障ゼロ
- ◎ 夫が遺棄・死亡した場合
  - 母子家庭：貧困状態　　ただし相互扶助の「講」
  - 魔女と見なされる　（一人暮らし率　イングランド1%）
- ◎ 遺棄のやりやすさ
  - 男性 > 女性
- ◎ 総合的には　忍耐した結婚継続。離婚は回避

# 破綻促進の経済要因：寿命

## ◎ 前工業化社会

- 平均寿命が短い→結婚継続年の短さ  
イングランド20年

## ◎ 工業化社会 →35年

- 「成人死亡率は18世紀後葉から減少し、結婚継続の予想年数をかつてない長さにまで伸ばし、その結果として西洋社会は離婚という制度化された抜け道をとったのだった」 (Stone)

## ◎ 20世紀の破綻・離婚

- 結婚後数年以内に起こる

# 一般傾向

- ◎ 離婚抑止力の現象
  - 工業化と都市化→社会・経済要因を変化
- ◎ 家族経営外の生産活動の可能性拡大
  - 結婚への期待値増大
  - 寛容度（虐待・抑圧・不幸な気分）の減退

# 講義内容

- ◎ 1. カトリックとプロテスタント
- ◎ 2. 17世紀イングランドとニューイングランド
- ◎ 3. 世俗化、啓蒙主義、フランス革命
- ◎ 4. 近代初期の社会における正式の離婚と非公式の離婚
- ◎ 5. 結婚挫折の意味とその文脈
- ◎ 6. 19世紀：自由主義とその反動
- ◎ 7. 社会問題としての離婚：1850年-1914年
- ◎ 8. 20世紀と大量離婚の勃興
- ◎ 9. 離婚増加をどう説明するか：1870年代-1990年代